鶴ヶ岡城跡（第４次）

遺 跡 番 号　203-044
調 査 次 数　第４次
所　在　地　山形県鶴岡市馬場町地内
北緯・東経　38 度 43 分 40 秒・139 度 49 分 35 秒
調査委託者　庄内総合支庁建設部道路計画課
起 因 事 業　街路整備事業（防災・安全交付金）３・６・１号道形黄金線
調 査 面 積　153㎡
受 託 期 間　令和４年４月１日～令和５年３月 31 日
現 地 調 査　令和４年５月 26 日～ 10 月 31 日
調査担当者　草野潤平（現場責任者）・髙桑登
調 査 協 力　鶴岡市教育委員会
遺 跡 種 別　城館跡
時　　代　近世
遺　　構　土橋・堀・溝・土坑・柱穴・石列・性格不明遺構
遺　　物　土器・陶磁器・瓦・加工石材・金属製品・木製品・土橋部材　（文化財認定箱数：16 箱、土橋部材 307 点）

遺跡位置図（S ＝ 1:50,000）

調査の概要

鶴ヶ岡城跡は、鶴岡市街地の中心に位置し、明治 10 年（1877）創建の荘内神社が鎮座する本丸跡と二の丸跡北側が鶴岡公園として整備されている（写真１・２）。都市計画街路の整備を推進する県道改良工事に伴って、山形地方裁判所鶴岡支部の西側 153㎡（南北約 33m）が調査対象となった。調査地点は鶴ヶ岡城二の丸大手（正面口）にあたる荘内神社の参道入口に近く、城門前を堀と土塁で囲んだ「馬出」と呼ばれる防御施設が見つかると予想された。馬出に伴う堀の底面は地表下３m近くまで下がる可能性が高く、幅４mほどの狭い調査区で掘削箇所の安全な法面勾配を確保することが困難であるため、調査区長辺に長さ 9m 以上の鋼矢板を圧入する仮設土留工事を行なったうえで発掘調査を実施した。

遺構と遺物

表土を除去すると地表下 50cm 前後の深さで明治時代の整地層が全面に広がり、調査区西辺において南北方向に並ぶ石列が検出された（写真３）。石列は所々壊され、とくに北側では石の抜き取られた箇所が目立つが、南側約６mにブロック状の加工石材を据えているほかは長径30～45cmの大きな河原石を使用している。石列裏側には握りこぶしより小さな円礫が詰め込まれ、当時の土地区画に関連する遺構と考えられる。

さらに 50cm ほど掘り下げたところで、二の丸大手馬出に伴う堀 SD1 と、二の丸堀との間に造られた土橋 SF10 の東縁が確認された（写真４）。馬出の堀 SD1 は南北幅 12.5m 前後で、土橋上面から堀底最深部までの深さは約 2.5m を測る。堀 SD1 の南側上層では、鶴ヶ岡城跡の南方 8km ほどに位置する金峯山から切り出された花崗岩類（「金峯石」）が６個並んで出土し、廃城の際に崩された馬出の石垣石が明治９年（1876）の堀

の埋め立て時に置かれたものと考えられる（写真５）。急傾斜の堀南岸には乱杭が密に打ち込まれ（写真６）、堀・土橋の南端に胴木（石垣の基礎材）と思われる太い横木が据えられて馬出範囲との境が明瞭である（写真７）。土橋 SF10 の堀側にも南北方向に並ぶ２～３列の角杭・丸太杭を打って護岸としており、下層には軟弱地盤対策として細い杉の枝を厚く重ねる敷粗朶が施されていた（写真８）。杭は長さ 30cm 程度から 3m 近くまで、土橋だけで大小 200 本以上を数え、中には枘穴を穿つものなど建築部材を転用した杭も含まれる。これらの杭は一度に打たれたものではなく、崩れた箇所の改修など時期差があると考えられる。杭列の裏側には厚さ 2cm の横長板材を２～８段立て重ね(写真９)、その内側に玉石を積み上げる構築方法がとられていた。玉石積みの下には堀 SD1 の最下層が堆積し、その西側に玉石を含まない盛土の高まりとこれに伴う杭列が存在することから（写真 10・11)、土橋 SF10 の構築には玉石積みによる改築以前の段階があると判明した。堀・土橋では、土器・陶磁器や鏡・煙管などの金属製品、漆器・下駄などの木製品といった近世の遺物が出土しており、土橋改築前の堀底で 16 世紀末～ 17 世紀初頭の肥前陶器碗、改築後の玉石積み部分で 17 世紀後半の肥前磁器小坏、土橋改修時の砂利層で 18 世紀後半の肥前染付碗など、二の丸大手門前の詳細な変遷を裏付ける資料が見つかっている。

また堀・土橋範囲を除く調査区北側・南側の下層では、鶴ヶ岡城以前の溝・土坑・柱穴などが検出され（写真 12)、15 世紀に位置づけられる龍泉窯青磁碗・盤などの出土から、室町時代初期に武藤氏が築いた大宝寺城に関連する中世の遺構と考えられる。

まとめ

これまで鶴ヶ岡城の正面口にあたる二の丸大手馬出の姿は絵図でしか知ることができなかったが、今回の発掘調査によって実際の位置や平面規模、堀の傾斜・深さなどをはじめて把握することができた。

また、土橋の具体的な構築方法や変遷、部材の特徴、地盤改良の工夫なども明らかとなり、酒井家庄内入部 400 年の節目を飾るにふさわしい重要な成果と言える。

写真１　調査区遠景と鶴岡公園（北東から）

写真２　調査区周辺（北から）

写真３　明治時代の石列検出状況（南東から）

写真４　二の丸大手馬出に伴う堀･土橋の検出状況（南から）

写真５　堀 SD1 南側上層の金峯石出土状況（西から）

写真６　堀南岸の堆積状況と乱杭検出状況（北西から）

写真７　馬出北端の胴木・遺構検出状況（北西から）

写真８　土橋 SF10 の堀側下層に施された敷粗朶（東から）

写真９　土橋の杭列・板材（西から：手前は玉石除去状態）

写真 10　堀・土橋中央部の東西方向断ち割り断面（北から）

写真 11　堀 SD1 および改築後土橋の完掘状況（北東から）

写真 12　調査区南側下層の遺構検出状況（南から）

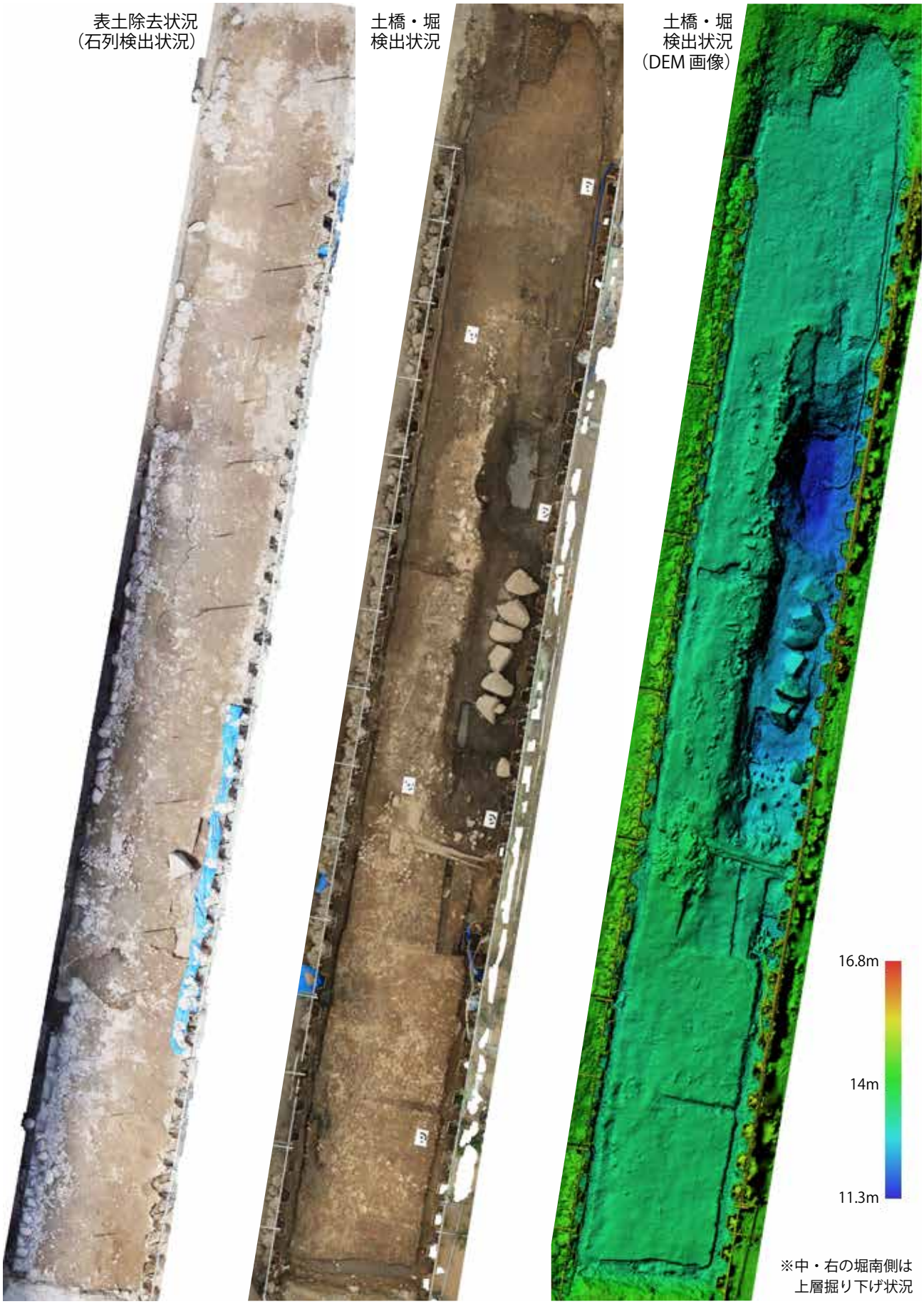

図１　遺構検出状況の調査区オルソ画像（上が北）